

街あるき自転車編

休みの日はなるべく外へ出て、体を動かすようにしている。しかし、もうヘビーなスポーツができる年ではない。かといって、ただ目的もなく、ぶらぶら散歩するところまでは枯れてはいない。目的を持って歩きたい。

近頃、おもしろいと思っているのは、街なかを好奇心を持って探検することだ。なおかつ、それを歩くのではなく、自転車でするのがおもしろい。

体を動かすと言っても、快適に体を動かしたい、自転車は、散歩よりはるかに快適である。しかし、最近は高低差が気になる。なるべくなら遠回りをしてでも、平坦地を走りたい。若干の下り坂ならほとんど休んでいるのと同じである。だがしかし、下りがあれば必ず上りがある。しかもそれが急な上り坂だとうんざりしてしまう。

渋谷川及びその支流の暗渠沿いに走れば平坦でスムーズだ。しかし、例えば、渋谷駅から神田川水系の笹塚方面に行くときは途中の旧玉川上水の「尾根」を越えなければならない。かなりの急坂である。また、同じく渋谷駅から今度は、目黒川水系の目黒区に行くには、「尾根」の三田用水を越えなければならない。例えば、渋谷、池尻大橋間は電車で一駅、2、3分だが、自転車で行くには、結構こたえる。

電動アシスト自転車を使うという手もあるが、そこまでして体を動かすつもりもない。その分、頭を使いたい、頭の中には等高線のある地図と道路地図を合わせた地図が必要だ。

ところが、残念ながら都心部の地図は市街地のしるしが一面にペンキのように覆わ

れ、等高線の表示がよくわからない。これは不便だ。そこで、川と暗渠の描いてある地図があると便利だ。お察しのとおり、水は高い所から低い所へ流れる。決して、山・谷・山とは流れない。水の流れに沿って走れば、平坦地を走れる。

しかし、川はあっても、暗渠の描いてある地図は無い。その様なときには、暗渠にする前の古い地図を見るのもおもしろい。

というところから、古い地図に興味を持ったのだが、それを見ると、昔の情景を思いめぐらし想像力をかき立たせ、また現在の情景とダブらせ、そのギャップにおもしろさを感じる。



というふうにあれこれ言ったものの、いざ自転車をこぎだすと、あっちにも行ってみたい、こっちも見てみたいということになる。すると、意に反して、急坂に出くわす。やはり、自転車には電動アシストが必要だったのか。いやいや、健康のために、この急坂、のぼりきってみせる。

この街あるきに参考となる図書

- ・『図説江戸・東京の川と水辺の事典』
鈴木理生／編著 柏書房
(中央・本町・臨川みんなの図書館蔵)
- ・『あるく渋谷川入門』
梶山公子／著 中央公論事業出版
(中央・渋谷・富ヶ谷・笹塚・本町・
臨川みんなの・代々木・笹塚こども
図書館蔵)